

○小野寺委員長 これにて國重君の質疑は終了いたしました。

次に、山井和則君。

○山井委員 二十五分間、質問をさせていただきます。

私、今までの自民党議員と公明党の議員の方々の質問をお聞きして、質問自体は、的確な質問を政治と金についてされているなというふうに感じました。自民党議員からは、個人所得と認定されたら、裏金は脱税の疑いがある、だから、岸田総理は自民党の議員に対して、自主申告をし納税させるべきじゃないですかと。全く同感です。公明党議員からも、自ら説明責任を自民党議員に果たさせるように、岸田総理、取り組むべきじゃないかと。おっしゃるとおりです。同感です。

しかし、残念ながら、岸田総理は、ほぼゼロ回答ではないかというぐらいの、前向きな答弁がありませんでした。

昨日、私たち野党が共同して要求しておりました自民党のアンケート調査が出てまいりました。国民の皆様も大変失望されたと思います。なぜならば、裏金額しか聞いていないんですね。肝腎の使い道、なぜそういう裏金をつかったのか、肝腎のところは全く分からないままです。

ここにフリップを出します。これは三枚あるんですけども、こういうふうには、八十五名の自民党議員、元職の方々のデータが発表をされました。三枚あるんですが、これが二枚目、そして三枚目。合計八十五人ですね。そして、ラストのところに書いてありますけれども、総額は五億八千万円ですね。大変な額です、八十五人の方々。

このような問題に対して、なぜこのような裏金をつかったのかも、そして何に使ったのかも、かつ、個人所得だったら納税しないと駄目なわけですからね、全く分からないんです。説明責任を果たしているとは全く言えません。これを見ても分からない。

そこで、岸田総理にお伺いをします。

これだけでは全く裏金の実態は分かりません。安倍派の幹部や二階議員を政倫審に出席させて説明をさせるべきではないでしょうか。お答えください。

○岸田内閣総理大臣 まず、御指摘のアンケートについてですが、党としては、こうしたアンケートと併せて、党幹部による聞き取り調査を行ってまいりました。そうした様々な手段を通じて実態把握に努めている、こうしたことであります。その上で、党としての説明責任を果たしたいと申し上げています。

そして、政倫審を始め、説明責任を尽くすべきではないか、こういった御指摘ですが、従来から申し上げておりますように、関係者、最も実態をよく知る本人を始めとする関係者が説明責任を尽くしていく、これは重要なことであり、実態把握に努めるためにも、説明責任を果たすよう党として促してきているところであります。そして、これからも説明責任を尽くすよう促していきたいと思っております。

ただ、政倫審、具体的な国会での議論のありようについては、これは国会においてお決めいただくことであると考えております。

○山井委員 国会においてお決めいただくことって、何か人ごとみたいなことをおっしゃっていますね。

野党は昨日、共同して、政倫審を開いて二階議員や安倍派の幹部に説明をさせるように申し入れをしました。決断をしていないのは自民党ですよ。その自民党の総裁は、岸田総理、あなたじゃないですか。岸田総理が決断しない限り、野党は要望しているんですよ、止めているのは岸田総理なんです。そうじゃないというんだったら、この場で、自民党として安倍派幹部や二階議員には政倫審に出席するように促すということを、岸田総理、総裁として明言してください。

○岸田内閣総理大臣 先ほども申し上げたように、説明責任を果たすよう、尽くすよう、党として促してまいりましたし、これからも促してまいります。

ただ、政倫審の仕組み等については、委員も御案内のとおり、本人の意向等様々な観点から国会として御判断いただくべきものであると申し上げております。

いずれにせよ、様々な手段を通じて説明責任を尽くすことを党としても促していきたいと考えます。

○山井委員 ごまかさないでいただきたい。国会でお決めになると言うけれども、野党は要望しているんですよ。自民党が反対しているんですよ。反対している自民党の責任者は岸田総裁ではないですか。そういうことでしょう。

違うとおっしゃるんだったら、この場で、自民党総裁として、政倫審の出席、自分もそうすべきだと思うということをはっきりと明言してください。

○岸田内閣総理大臣 政倫審について、政倫審への出席、これは本人の意向等も踏まえた上で国会として御判断いただき、こういったことであると私は認識をしております。

そして、説明責任を尽くすことは大事だ、こうしたことを本人に促していく、これは党としても今後ともしっかりと促してまいりますと申し上げている次第であります。

○山井委員 やる気ゼロですね。

私、岸田総理が政治改革の先頭に立つ、火の玉になって戦うとおっしゃったから、リーダーシップを取ってくださるといふうに今でも期待しています。

促して、促してと。じゃ、促して、一週間たっても二週間たっても、促して、相手がオーケーと言われなかったら、説明責任を果たさなくていいというふうに岸田総理は思っておられるんですか。

○岸田内閣総理大臣 説明責任を果たすことは大事だと申し上げております。そして、記者会見を始め様々な手段で説明責任を果たすべく、党としてもしっかりと促してまいります。

ただ、制度として、政倫審については、御案内のように、本人の意向を始め諸点を勘案した上で国会で御判断いただき、こういった仕組みになっているということをお知らせしております。

いずれにせよ、説明責任を尽くすよう促していく、これは当然のことであると考えています。

○山井委員 私、別に国会審議で政倫審の制度の説明を聞きたいと思っているんじゃないんですよ。岸田総理の決断を聞きたいんです。

繰り返し言いますけれども、国会で協議すると言っているけれども、反対しているのは自民党なんですよ。その責任者は岸田総裁じゃないですか。

今、反対していないという声が出ました。岸田総理、はっきりしてください。今、安倍派幹部、二階議員に、政倫審に出席するように岸田総理からも促しているんですか。

○岸田内閣総理大臣 説明責任を尽くすように党として促しております。

政倫審の仕組みについては、先ほど来申し上げているとおりであります。

いずれにせよ、様々な手段を通じて説明責任を尽くす、これを党として促してまいります。

○山井委員 何か、やる気が全く感じられないんですよ。全然火の玉になっていないじゃないですか。

具体的にお答えください。岸田総裁から、二階議員、安倍派幹部に直接、政倫審に出て説明責任を果たすべきだということは促しておられるんですか。

○岸田内閣総理大臣 先ほど来申し上げているとおりであります。説明責任を尽くすよう促しております。

政倫審については、御案内のとおり、制度として、本人の意向等を確認した上で国会で御判断いただき、こうしたものであると認識をしております。

いずれにせよ、説明責任を尽くすことをこれからも促してまいります。

○山井委員 貴重な予算委員会の時間で、私も社会保障とか子供の貧困とかいろいろ質問したいことがあるんですよ。同じ答弁を繰り返さないでください。単純なことを聞いているんです。

同じ質問をします。二階議員、安倍派幹部に岸田総理から、政倫審に出席して説明するように促しておられますか。

○岸田内閣総理大臣 説明責任を尽くすよう、様々な手段を考えていただくよう、説明していただくよう促しております。

政倫審については、先ほど来申し上げているとおりであります。

○山井委員 もし促されたのであれば、返事は、二階議員、安倍派幹部からはどういう返事が今来ているんですか。

○岸田内閣総理大臣 説明責任を尽くすよう促しております。そして、具体的な手段につきましては、それぞれ的手段で説明責任を果たしていただいていると思います。しかし、まだまだ不十分だという御指摘に対して、より一層、説明責任を尽くしてもらうよう促しているところであります。

政倫審については、先ほど来申し上げているとおりであります。

○山井委員 では、さっきのリストのこのまま、単に、五億八千万の裏金、額を出しただけで、もう御本人は説明しないでいいということですか。

萩生田議員の政治資金収支報告書、これもここにありますように、萩生田議員、収入総額不明、前年からの繰越金不明、支出の総額不明、翌年への繰越額不明、政治活動費不明。不明、不明、不明、不明、不明。

岸田総理、これで国民が納得すると思いますか。

○岸田内閣総理大臣 まず、先ほどの自民党のアンケートについては、アンケートは一つの実態把握の手段ではありますが、併せて聞き取り等を行い、党として全体像を把握するべく努力をした上で、党としての説明責任を果たしていきたいと思っております。

そして、御指摘の収支報告書、東京都二十四区の収支報告書については、これはこれまでも予算委員会の議論に出ておりましたが、収支報告書の一部に不明とされている部分については、判明次第追記する旨の記載があったと承知しております。実態を確認し、事実を確認した上でその不明の部分についても追記する、そういった趣旨の記載が報告書の中にあったということも聞いております。

○山井委員 一部じゃないじゃないですか。収入の総額が不明だったら、全部不明なんじゃないですか、結局。翌年への繰越額も不明、政治活動費も不明。

今、確定申告の時期、またインボイスで、納税のために国民の皆さんは本当に困っておられるんです。だから、国民の皆さんからの怒りは、裏金問題かつ自民党の議員は納税の義務を果たせということ、そういう声が出ているんですよ。

岸田総理、では改めてお聞きしますが、二階議員、安倍派幹部からは、出ないと言っているんですか、どうなっているんですか。

国民や私たちからすると、促している、促しているといつて、何にも進んでいないじゃないですか。そして、こういう不明、不明の政治資金の報告書を出されても困るわけですよ。

繰り返しお聞きしますが、二階議員や安倍派幹部は、岸田総理に対して、政倫審に出ると言っているんですか、出る気がないと言っているんですか。回答はどうなんですか。

○岸田内閣総理大臣 党幹部として関係者に対して、説明責任を尽くすよう働きかけを行い、そして促し続けております。

そして、具体的な、政倫審については、扱いは先ほど来申し上げたとおりであります。

いずれにせよ、どんな手段を取るにせよ、説明責任を尽くしてもらうことは重要であるということは引き続き促してまいります。

○山井委員 これから確定申告や納税の時期で、裏金というのは脱税の疑いもあるんですよ。せめて説明責任を果たさせるのは当然じゃないですか。説明責任なくして再発防止もできません。

私、何度も岸田総理の答弁を聞いて怪しいなと思うのは、説明責任を尽くすようには促しているけれども、政倫審を促しているとは絶対言わないんですよ。ということは、岸田総理は、これだけ大問題になっているのに、二階議員や安倍派幹部には、説明責任を尽くせというのは、これは一般論ですよ、こんなのは。尽くしていますよと言ったらそれで終わりなわけですから。具体的に、政倫審に出て説明を尽くすべきじゃないかということ、二階議員や安倍派幹部には政倫審に出てということは促しておられるんですか。

○岸田内閣総理大臣 先ほど申し上げているように、様々な説明の手段を講ずる必要があるということは申し上げております。説明責任を尽くす、国会の場においても説明責任を尽くす、このことは大事だと申し上げております。

具体的な、政倫審を始めとする国会の在り方、運び方については国会において御判断いただくことと申し上げております。

○山井委員 本当に、私も国対を長くやってきましたけれども、今の説明は虚偽ですよ。国会においてお決めいただきたいと言うけれども、自民党が反対しているんですから。その責任者は岸田総裁じゃないですか。自民党が、一方ではブレーキをかけて止めておいて、反対、反対、反対と言いながら、国会で決めてくださいと言ったって、決まるはずないじゃないですか。

岸田総理、ということは、いや、私、繰り返し言いますよ。火の玉になって先頭に立って政治改革をするとおっしゃったから私は言っているのであって、今日の質疑を聞いていると、岸田総理はそもそも、二階議員や安倍派幹部には、政倫審に出るよにという促しすらされていないということですか。私は、これは国民に対する背信行為じゃないかと思いますよ。説明責任を様々な方法で尽くしてください、そんな一般論、総裁じゃなくても誰でも言えますよ。

岸田総理の責任は、今、総裁なんですから、総裁だったら、これだけ納税の義務、裏金の疑惑という中になって、今、この疑惑を払拭する責任があると思うんです。

私、なぜ強く言っているかという、先ほども言ったように、多くの自民党の議員の方々や公明党の議員の方々、与党、野党、これは関係ないですよ、みんな怒っているんです、この問題。何のために岸田総理は総裁をやっておられるんですか。私、極端な言い方をしたら、こういうときに決断できないんだったら、自民党総裁、総理大臣の役割を果たしていないと思います。

○小野寺委員長 山井委員、総理から答弁を求められております。

○山井委員 いや、残念ながら、総理から答弁といたって、同じことしか言わないじゃないですか。ゼロ回答の連発じゃないですか。

ですから、改めて言います。様々な説明責任じゃなくて、せめて直接、二階議員、安倍派幹部に政倫審に出席するように総理から促してください。いかがでしょうか。

○岸田内閣総理大臣 説明責任を尽くすよう促してまいりましたし、これからも促してまいります。

しかし、具体的な制度に基づいてどうするかということについては国会で御判断いただかねばならない、これは当然のこととして申し上げております。

様々な取組、手段を通じて説明責任を果たしてもらいたいと私も強く思っております。

○山井委員 私も様々な政策の議論も今日もしたいけれども、先に進まないわけですけどもね。

私たちはなぜ言っているのかというと、政倫審に出てこないんだったら、この予算委員会の参考人招致、それに出てこないんだったら証人喚問、そういうことになるんですけども、被災者の支援もある、社会保障の議論もある、貴重な予算委員会の時間をそういうことに使いたくないわけですよ。政倫審に自民党から自主的に出てきていただいたら、予算委員会と切り離すことができるんですよ。予算の審議もできるんですよ。

岸田総理、ということは、岸田総理は、火の玉になると言いながら、二階議員や安倍派幹部には政倫審への出席を促す気はないということですか。お答えください。

○岸田内閣総理大臣 説明責任を尽くすよう働きかけております。是非、説明責任を果たしてもらいたいと思いますし、そのために様々な手段があるということ、これは党としても考えておりますし、関係者と意見交換をしておるところであります。

○山井委員 これは、岸田総理、総裁選挙のことを考えておられるんですか。ここで二階議員や安倍派の幹部に言ったら、今年九月の総裁選挙、安倍派、応援してくれないかな、二階派、敵に回すと総裁続投無理かなど。脱派閥とおっしゃっている岸田総理が一番派閥の論理で今動いているんじゃないんですか。そうとしか思えないじゃないですか。

岸田総理、派閥にとらわれていないというのであれば、この場で、二階議員や安倍派幹部に政倫審への出席を促すと。別に、オープンな場で言えと言っているんじゃないですよ。自主的に出てきましたという形にすればいいわけですからね。促すということをするべきじゃないですか。

○岸田内閣総理大臣 自民党として、いわゆる派閥を解消しなければならないということで、旧安倍派、二階派、今は存在をいたしません。

そして、派閥の論理で政倫審への対応を考えているのではないか、これは全く当たりません。今、御指摘のよう

な派閥は存在しない。その中で、自民党自身が今問われている、自民党としてどう説明責任を果たすか、これが問われているという中で、党として説明責任を果たすことが大事だと、それぞれの関係者に働きかけているところがあります。

ただ、具体的な国会での議論の在り方については国会の御判断を仰がなければならない、このように申し上げております。

いずれにせよ、様々な手段を通じて説明責任、十分な説明責任を関係者に果たしてもらえるよう、党としてしっかりと促していきたいと考えています。

○山井委員 社会保障の議論とかいろいろしたかったのですが、質問時間が終了しました。

岸田総理、最後に申し上げます。問われているのは、自民党の判断じゃないんです。岸田総理の判断が問われているんです。国会でお決めくださいと永遠におっしゃっても、野党が要求しているのに、止めているのは自民党であり、その総裁の岸田総裁がこれを止めているんです。そのことは強く申し上げたいと思います。